



第15回ホームカミングデイを開催

令和3年10月30日(土)、紅葉の金沢大学角間キャンパスにて、第15回金沢大学ホームカミングデイが開催されました。

昨年は実施を取りやめた特別講演や懇親交流会も新型コロナウイルス感染症への対策を施し、規模

を縮小した上で実施しました。歓迎式典には132名、懇親交流会には94名の卒業生及びそのご家族等にご出席いただき、久しぶりの再会等で賑やかな一日になりました。歓迎式典は、感染拡大防止の観点から金沢大学合唱団による校歌斉唱で始まりまし



● 学長挨拶



◆挨拶を述べる山崎学長

金沢大学学長挨拶で山崎光悦(やまざき こうえつ)学長は、コロナ禍で顕在化した東京一極集中の打開のため、多様な人材の集積拠点として社会変革の原動力となる大学改革を進めていく、教育改革では令和3年4月に融合学域先導学類、医薬保健学域医薬科学類をスタートさせ、引き続き観光デザイン学類などを新設します。

研究力強化では、世界トップレベル研究拠点プログラム(WPI)拠点であるナノ生命科学研究所を筆頭に、4月に新設した高度モビリティ研究所等を加えたフラグシップ研究所群が世界的研究拠点形成に向け分野融合研究を推進し、新たな知の創出を牽引

していく旨述べられました。

また、金沢大学では、コロナ禍で就学困難となっている学生への支援を目的に「緊急学生支援金事業(新型コロナウイルス感染症対策)」を創設し、修学支援基金から3200万円、大学基金から1775万円を学生に支援しました。卒業生の皆様からの多大なご寄附に対し謝意を示し、さらに引き続き、皆様のご理解とご支援をお願いしたい旨、挨拶がありました。

● 学友会会長祝辞

来賓を代表して祝辞を述べられた山出 保(やま で たもつ)金沢大学学友会会長は、今年度で退任される山崎学長について、直近の研究面では「ダイセルとの協定締結による新産学協働研究所(仮称)の整備と産産学学連携の推進」、教育面では「クォーター制の導入」、「人間力強化プログラム」による合宿



◆祝辞を述べる山出会長 (法文学部・昭和29年卒業)

での寝食を共にした指導など就任後からの数々の功績を述べ賛辞を贈るとともに、今後も「同窓生、現役学生、教職員などすべての構成員がスクラムを組み固い絆で大学の発展を支えてほしい」との激励の言葉を贈られました。

● 金沢大学の近況報告



副理事長 榎谷 良樹

和田隆志(わだ たかし)理事(研究・社会共創担当)・副学長から、「皆が頑張る、地域に愛され、世界に輝く金沢大学」と題し、

- ①新型コロナウイルス感染症への対応
- ②金沢大学の基本データ
- ③金沢大学の戦略
- ④YAMAZAKIプラン2020 Next Stage
- ⑤金沢大学の改革と挑戦
- ⑥高度臨床研究の展開と中核

◆近況報告する和田理事・副学長

的な医療機関としての機能強化に向けた附属病院改革の推進、について本学の近況が報告されました。

● 学生の留学体験報告・課外活動報告

- ★人間社会学域人文学類4年 無量井文恵(むりょういふみえ)
「フィンランド留学」フィンランド ユバスキュラ大学
- ★自然科学研究科博士後期課程2年
中窪 圭佑(なかくぼけいすけ)
「留学における経験と成長」中国 北京師範大学
- ◇テニス部：理工学域フロンティア工学類3年
渋井 諒(しぶいりょう)



◆報告後にあいさつする渋井さん(左側)、中窪さん(中央)、無量井さん(右側)

● 特別講演

2年ぶりの特別講演では、社会福祉法人佛子園理事長 雄谷良成（おおよりょうせい）氏から、「ごちゃませ」と題し、ご講演をいただきました。

佛子園の取り組みとして、「1998年から街おこし」、「地域のコミュニティモデルの創出」、「被災地への活力」、「看取りあう」を掲げ、様々な人が訪れるコミュニティから人と人のつながり（ごちゃませ）が生まれ、その「つながり」は性別や年齢、障がいの有無と関係なく、誰も排除しない社会を生み出していくこと、誰もが心地よいと感じられる環境や居場所を提供していくことが地域社会に求められている、と話されました。

また、組織の中では、それぞれの部署の役割を超えた連携により利用者への対応を共有し、すべての利用者が満足を得られるよう取り組んでいくことが重要であると述べられました。お話の内容は大学の人材育成や地域貢献にとっても大変重要であり、組織としても金沢大学の今後の目標とする姿と通ずるものがありました。



◆講演する 雄谷 良成 氏
社会福祉法人佛子園 理事長
(教育学部・昭和60年卒業)

● 第11回金沢大学学友会役員総会

第11回金沢大学学友会役員総会は、学友会役員の変更が行われ、次期学友会会長として理事会から推薦のあった現副会長の安宅建樹氏の就任が承認されました。また、次期学友会役員候補者の方々に、その職を委嘱する旨説明があり、次期役員等が決定しました。

総会の後、山崎学長から山出会長に、学友会会長としての長年にわたる御貢献に対し、感謝状と記念品目録が贈られました。

【学友会新役員（令和3年10月30日～令和5年10月29日）】

会 長	安宅 建樹（法経文）		
副 会 長	大路 孝之（法経文）	金浦 修郎（教育）	
	岡本 博之（理）	山本 健（医）	
	松永 司（薬）	大貝 和宏（保健）	
	伊藤 寛治（工）		
代表理事	大竹 茂樹（金沢大学副学長）		
理 事	鳥越 伸博（法経文）	坂根 功一（教育）	
	井村 久則（理）	土屋 弘行（医）	
	松下 良（薬）	松崎 太郎（保健）	
	喜成 年泰（工）		
監 事	菅野 俊司（工）	東 実（教育）	

● 懇親交流会

歓迎式典後の懇親交流会は、新型コロナウイルス感染症への対策のため各テーブルをアクリル板で区切り、参加者は着席により懇談しました。山崎学長の歓迎挨拶の後、安宅新会長の乾杯発声により開会しました。会場では、本学卒業生である女性アマチュア木管アンサンブル「ナチュラル・クインテット」による演奏があり、懇親交流会が華やき大いに盛り上がりました。

その後、山出会長から会長職8年間の振り返りと金沢大学への激励のお言葉をいただきました。

最後に、大竹理事・副学長から締めめの挨拶があり、次回も元気で再会することを祈念し、名残を惜しみつつ終了しました。



◆乾杯で挨拶する安宅新会長



◆交流会の様子

短信① ▶ ◎金沢大学北海道学友会リモート懇親会 開催

金沢大学北海道学友会（紺野寛会長、会員70人）は、コロナ禍により本年度総会を開催できなかったため、12月4日にリモート懇親会を開催しました。画面越しに乾杯し、2年ぶりの「再会」に親交を深めました。本学から山崎光悦学長の動画メッセージが届き、母校の「今」に感慨深いものがありました。北海道内の六つの基幹同窓会が参加した北海道学友会は2011年に発足し、今年で11年目。例年、10月に総会と懇親会を開催してきましたが、コロナ禍により昨年は中止としました。今年は秋以降、道内の感染状況は小康を保ってきたものの大事をとって集会型の総会はとりやめ、代わってウェブを活用した懇親会、いわゆる「リモート飲み会」にしました。何人が参加できるか危惧しましたが、当日は8人が好みの酒と肴を用意して登場。「ひとりキムチ鍋」「猫と二人酒」「金沢カレーパン持参」「出張先のホテルから参戦」など皆さん、くつろぎながら再会を楽しみました。乾杯に続き、全員が近況報告し、続いて山崎学長の動画メッセージを「共有」しました。変貌する母校の近況に感慨を深めつつ、コロナ禍の中で開業を決断した社労士、学生寮が閉鎖となりリモート講義が続いた教官、一方で事業量が増えて出張続きの技術職、酒蔵を増設し活躍する杜氏など、それぞれの近況に、まさに「語り明かさん今宵かな」（北の都）の風情でした。紺野会長も「ついワインを一本空けてしまった」という盛会でしたが、「次回はやはりリアルで再開を」の言葉でお開きとなりました。

（広報担当理事・武野伸二 1978年法文学部卒）

※紙面の都合で一部割愛させていただきました。



- 大学が業者に名簿作成を依頼することはありません。電話等による勧誘には十分ご注意ください。
- 地域・職域・サークル・寮等の同窓会活動の近況や総会・懇親会等の開催日程、開催報告等を「学友支援ニュース・レター」に掲載ご希望の場合は、学友支援室までご連絡ください。